

よりそいニュースレター

2012年8月15日 | 第4号

「よりそいネットおおさか」2012年度(第4回)総会を開催 ～2部 龍谷大学法科大学院(矯正・保護総合センター) 浜井浩一教授から講演～

2012年度の取り組みを確認

「よりそいネットおおさか(福祉の支援を必要とする矯正施設等を退所した人々の自立支援おおさかネットワーク)」の2012年度(第4回)総会を、2012年8月6日、午後1時30分から大阪市「AIAI おおさか(HRCビル)」で開催しました。加盟団体等から約70名の参加をいただきました。

総会では、開会に先立ち梶本代表(大阪府社会福祉協議会会長)が「国においても生活支援戦略として、よりそい型、伴走型の支援が検討されている。よりそいネットは、その先を歩んでいる。今後、さらに運営体制を強化し充実した取り組みをしていきたい」と挨拶。また、来賓挨拶に大阪府福祉部から古川福祉総務課長、大阪保護観察所から井之口統括保護観察官から挨拶を頂きました。

議事では、2011年度の活動や決算、2012年度の取り組み、課題等を確認いただくとともに、予算案、役員選出の承認をいただきました。

なお、今年度より、村井茂(大阪府人権協会理事長)、藤本昌夫(更生保護施設和衷会施設長)が、新しく役員に就任されました。



挨拶に立つ梶本代表 (HRCビル:弁天町)

2012年度の活動の柱

「相談・支援活動」：大阪地域定着支援センター事業を補完する民間・市民ネットワークとしての活動を充実し、連携・協働する。

「啓発活動」：各種講演・セミナー等に積極的に参加し、関係機関・市民の方々の理解と協力が得られることを目指す。

「研究・提言活動」：『支援手法のあり方』『就労支援のあり方』『司法と福祉の連携のあり方』等についても研究を継続し、提言へと結び付けていく。

「研修活動」：先進的な支援事例の紹介や専門家のアドバイス、支援手法の研修会等の機会を設けていく。

*活動を支える事務局機能の充実等を目指し、組織の法人化について引き続き検討作業を進める。

承認された 役員・事務局の方々

【役員】

代表 梶本 徳彦 (社福)大阪府社会福祉協議会(会長)
副代表 吉村 和生 (社福)大阪自彊館(理事長)
" 奥村 健 (社福)みおつくし福祉会 更生施設 大淀寮(施設長)
" 梶山 高志 (社)大阪ビルメンテナンス協会(名誉会長)
" 村井 茂 (財)大阪府人権協会(理事長)
" 神尾 雅也 (社福)大阪府総合福祉協会(理事長)
会計 藤本 昌夫 更生保護施設和衷会(施設長)
会計監査 水内 俊雄 大阪市立大学・都市研究プラザ(教授)
" 大橋 さゆり 弁護士(大阪ふたば法律事務所)

【アドバイザー】 浜井 浩一 龍谷大学法科大学院(教授)
辻川 圭乃 弁護士(辻川法律事務所)

【事務局】:

(社福)大阪府総合福祉協会・(財)大阪府人権協会

事務局長 北場 好信(大阪府総合福祉協会)
事務局員 田岡 秀朋(日本型CAN研究会)
" 平川 隆啓(CASE/まちづくり研究所)
" 岡本 友晴(更生施設 大淀寮)
" 益子 千枝(大阪府地域生活定着支援センター)
" 上田 大造(大阪府人権協会)

龍谷大 浜井 浩一 教授 講演



「罪を犯した者の更生と今後の課題」 —日本の犯罪と刑事司法(刑罰)を実証的に検証する—

総会に引き続いて、龍谷大学法科大学院(矯正・保護総合センター) 浜井浩一教授から講演をいただき、約 80 名が参加しました。

前半、犯罪や犯罪者の処遇が今、どういう実態で今後どう変わっていくのかというところをデータに基づき話をいただき、後半、発達障がい者に求刑を超える判決が出されたことや犯罪対策閣僚会議の数値目標をどう見るべきなのかに触れてお話しいただきました。



社会が排他的になれば、居場所を失った人が最後に行き着く場所が刑務所。刑務所は社会の一部である。受刑者の多くは再び社会に戻っていく。社会の中に居場所が作れなければ、回転ドアのように受刑者は刑務所に戻ってきて、最後は刑務所で死を迎えるしかない。刑務所で死亡する高齢受刑者の急増は、そのことを端的に示している。

なぜ社会的弱者と言われる人が刑務所に大量に拘禁されているのか

刑務所は、社会の中で唯一受け入れを拒否したり、たらい廻しをしたり、途中で追い出したりできない施設。福祉を中心とするセーフティネットが十分に機能せず、

文献紹介

「持続可能な刑事政策とは 地域と共生する犯罪者処遇」

日本犯罪社会学会・編 浜井浩一・責任編集 現代人文社

少子・高齢化する日本社会における犯罪者処遇の在り方は？ 多様な専門家による指針を示す。日本の第一線の犯罪学、教育社会学、経済学そして更生保護や野宿者支援の実践家による新しい犯罪者処遇の在り方を提案する論文を収録。さらに、今注目を浴びるノルウェーの著名学者による論文も収録。

序章 本書の構成(浜井浩一)

第1章 他者との出会い<他者を知る>(ニルス・クリスティ)

第2章 社会の変化と日本の少年矯正—教育社会学の立場から(広田照幸=伊藤茂樹)

第3章 経済学の視点から見た刑事政策(中島隆信)

第4章 人口減少・高齢化社会における更生保護—実務家からの視点(久保 貴)

第5章 少子・高齢化時代の持続可能な刑事政策—応報司法から問題解決司法へ(浜井浩一)



「ホームレスと社会 Vol.6」 『ホームレスと社会』編集委員会 編 明石書店

特集1 刑事施設等出所者の地域生活定着支援 新しいセーフティネットの検証・第1弾

○ 山本譲司さんに聞く

・刑事施設出所者等への生活支援はどうなっているか(益子千枝、宮澤進、立岡学、水内俊雄)

○日本の刑務所はなぜ社会的弱者でいっぱいなのか(浜井浩一)

○更生保護における自立支援

—高齢・障がいにより特に自立が困難な刑務所出所者等 に対する支援について(深町秀樹)

○更生保護施設における福祉の連携(古川隆司)

○地域生活定着支援センター設立の背景と実際の支援(酒井龍彦)

○自立準備ホームにおける支援の実践—東京都における NPO の運営経験を通じて(秋山雅彦)

○触法障がい者に対する刑事裁判における福祉的支援—ソーシャルワーカーと弁護士の連携(原田和明)

○障がいのある犯罪行為者の更生支援—オーストラリア・ビクトリア州での実践(水藤昌彦)



「福祉の支援を必要とする矯正施設等を退所した人々の自立支援おおさかネットワーク」

(事務局) (財)大阪府人権協会 電話 06-6581-8613 FAX 06-6581-8614

(社福)大阪府総合福祉協会 電話 06-6581-8673 FAX 06-6581-8675

※ 住所(両会とも) 〒552-0001 大阪市港区波除 4-1-37 HRC(AIAI おおさか)ビル 8 階

※ 「大阪府地域生活定着支援センター」 電話 06-6581-8644